

2019 年度（令和元年度）

自己評価報告書

2020 年（令和 2 年）9 月 9 日

学校法人 東杜学園
国際マルチビジネス専門学校

目 次

1. 学校の現況	3
2. 評価の基本方針	6
3. 重点目標	7
4. 項目毎の記述	
(1) 教育理念・目標	9
(2) 学校運営	10
(3) 教育活動	11
(4) 学修成果	13
(5) 学生支援	14
(6) 教育環境	15
(7) 学生の受入れ募集	16
(8) 財務	17
(9) 法令等の遵守	18
(10) 社会貢献・地域貢献	19
(11) 国際交流	20

1. 学校の現況

(1) 設置者及び学校名

設置者	学校法人 東杜学園
学校名	国際マルチビジネス専門学校
代表者	理事長 野口 和江

(2) 所在地

〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央4丁目8番32号

(3) 沿革

1949年6月	「宮城県経理友の会」会長 野口一郎（仙台商工会議所内に設置）
1951年4月	東北経理実務学校創立 開校（設置者 野口会計受託株式会社） 「校章」「校訓～五常訓（健康・誠実・節約・信義・研鑽）」制定
1953年2月	（学校設置者変更認可）財団法人 東北経理実務学園
1956年9月	創立5周年記念式典「校旗」「校歌」制定
1961年4月	創立10周年記念式典
1963年7月	（学校法人変更認可）学校法人 東北経理実務学園
1971年9月	創立20周年記念式典
1973年10月	（校名変更認可）東北経理専門学校

1976年 3月 学校法人 東北経理学園 専修学校制度施行・昇格認可

1981年 10月 創立 30 周年記念式典

1991年 10月 創立 40 周年記念式典

1994年 3月 (校名変更認可) 東北情報経理専門学校

1997年 3月 新校舎落成

1997年 4月 (法人名・校名変更認可) 学校法人 東杜学園
国際マルチビジネス専門学校 開校

現在に至る

(4) 学科編成

①商業実務専門課程 昼間部 2年制

- ・国際観光学科
 - トラベル専攻
 - エアポートビジネス専攻
 - トラベル外国語専攻
- ・国際ホテル学科
 - ホテル専攻
 - 料飲サービス専攻
 - ホテル外国語専攻
- ・ブライダルビジネス学科
 - ブライダル専攻
 - ブライダルスタイリスト専攻
 - 海外ウェディング専攻
- ・販売ビジネス学科
 - ショップビジネス専攻
 - ファッションビジネス専攻
 - ビジネス外国語専攻
- ・総合英語学科 2年コース
- ・日本語ビジネス学科

②商業実務専門課程 昼間部 1年制

- ・国際観光学科 トラベルキャリア専攻
- ・国際ホテル学科 ホテルキャリア専攻
- ・ブライダルビジネス学科 ブライダルキャリア専攻
- ・販売ビジネス学科 ビジネスキャリア専攻
- ・総合英語学科 1年コース/英語キャリア専攻

③商業実務専門課程 夜間部 2年制

- ・国際ホテル学科 夜間部

(5) 学生数及び教職員数

在校生数	185名 (2019年4月1日現在)
教職員数	75名 (2019年4月1日現在)

(6) 学園理念

多様な価値観を理解し、多数の情報源を有する機動力と行動力を持った人材を育成し、国際・地域社会に貢献できる有益な人材を育成する

2. 評価の基本方針

- (1) 実践的な職業教育を行う教育機関としての責務、及び関係業界等のニーズに迅速且つ的確に対応し得る波及力、以上2つの視点について客観的な検証と評価を行う。
- (2) 評価については、定性的かつ定量的なデータを基に信頼性と妥当性のある結果の確保に努めるとともに、学園理念及び教育基本方針との照合を実施し、より質の高い職業教育が可能となるよう、学校運営の組織的かつ継続的な改善を図る。
- (3) 客観的且つ多面的な自己評価を実施することで、学校運営の更なる改善に努めることはもちろんのこと、実践的な職業教育の水準向上に努め、地域社会及び国際社会で活躍できる人材の育成を目指す。

3. 重点目標

(1) 重点項目

職業人前教育を担う教育機関としての専門学校的位置付け及び特色を意識し、時代を問わず社会より普遍的に求められる「専門性」・「社会性」・「人間性」・「国際性」の4点の育成を目指す。

上記を達成する上で、以下4点の支柱を明示する。

- ①学生の積極的な学修参加
- ②退学の防止
- ③就職率ならびに進路決定率の維持と向上
- ④外国語教育の拡充と留学生の受入れ体制の確立

(2) 取組状況・成果

①学生の積極的な学習参加

認定5学科全てにおいて、立案から実施までの工程を学生が担当する実習制度を導入している。社会人として必要とされる「課題発見能力」及び「課題解決能力」の育成を主眼とするのみならず、課題遂行上不可欠となる「コミュニケーション能力」の向上など、「社会性」を学修する場ともなっている。

②退学の防止

オープンキャンパス等において、専門学校の特長、教育理念、就職実績、そして学生納付金等について、細部に渡る説明を実施し、入学前のミスマッチの防止に努めている。

また、担任制の導入により、入学後に定期的な個人面談を実施。さらに、定期的な出欠率の確認と指導を徹底することで、学生の個別性の把握に努めている。

一方で、進路変更等が生じた場合は、休学及び転科を視野に入れた指導を実践することで、退学の防止に努めている。

③就職率ならびに進路決定率の維持と向上

求人数の増加、早期からのキャリア教育、そして就職支援担当ならびに各担任のきめ細かな指導が功を奏し、2019年度日本人学生の就職率は、98.4%となった。外国人留学生においては、今年度も就職内定率は100%となった。

④外国語教育の拡充と留学生の受入れ体制の確立

年々深刻さを増す18歳人口の減少に加えて特出すべき事項の1つに、外国人留学生の増加がある。また、「語学力」を採用の絶対条件とする企業が増え続けている。社会に求められる人材の育成を担う教育機関として、外国語教育の拡充と外国人留学生の受入れ体制の確立は、より一層重要度を増している。

2017年度に新設された「総合英語学科」及び「日本語ビジネス学科」では、語学力を生かした分野での活躍が期待される。

(3) 今後の課題

①人間教育の更なる充実

日々刻々と変化する社会情勢の中で、若年者を取り巻く環境は大きな変化を遂げている。学習環境はもちろんのこと、他者との結びつきや家族関係においても、世代間で大きな違いが存在する。

しかしながら、いつの時代も求められる資質の1つに、「コミュニケーション能力」があげられる。自己表現力や傾聴力等の基礎的な能力はもちろんのこと、「ホスピタリティ精神」、そして躰に代表される「社会人としてのマナー」、これら2つの要素を習得でき得る人間教育の更なる充実は、今後も大きな課題となる。

②外国人留学生の学修及び生活指導のシステム構築

外国人留学生の受入れ及び教育にとって、「日本語力」、そして「外部との連携」は重要な項目といえる。日本語力向上のためのカリキュラム、そして日本語学校等との連携等が、今後も取り組むべき課題である。

4. 項目毎の記述

(1) 教育理念・目標

	評 価 項 目	自己点検 評価結果
a	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
b	学校における職業教育の特色が明確になっているか	4
c	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
d	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが 学生・保護者等に周知されているか	4
e	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①状況

- a : 「専門性」、「社会性」、「人間性」、そして「国際性」の4大要素を基軸に定められている。
- b : 専門教育はもちろんのこと、「人間力」の育成が本学園の特色として挙げられる。
- c : 設置3年目を迎えた「総合英語学科」及び「日本語ビジネス学科(留学生対象)」等、近年重要視されている「語学力」を意識した育成人材像を本年も継続している。
また、社会経済のニーズに幅広く対応すべく「国際ホテル学科 夜間部」を新設した。
- d : オープンキャンパス及び入学案内書を媒介として、周知が徹底されている。
- e : 本学園が重要視している4大要素に加えて、時代の流れに左右されない「人間力」の育成を最重要項目として掲げることにより、不変的に求められる人材の輩出に貢献している。

②課題及び改善方策

- c : 「語学力」がこれまで以上に重要視されている反面、社会経済のニーズに対する既存学科の改廃は日々検討の余地がある。
- e : 各業界のニーズを把握し、時代の流れに沿った育成人材像を設定することが重要である一方、学生の「質」は年々大きく変化している。現場の声に耳を傾けながら、適切な教育目標のもと最善の教育活動を実践していくことが、今後の課題として挙げられる。

(2) 学校運営

	評価項目	自己点検 評価結果
a	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
b	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3
c	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	4
d	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
e	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
f	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
g	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
h	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①状況

a/b/c：「学校法人東杜学園寄附行為」に基づき、本学園では理事会ならびに評議員会を開催し、学園運営を行っている。

e/f：経営方針や事業計画は、評議員会に諮問、理事会で承認決定の上、運営方針を決定している。

d：就業規則他諸規定は、適宜整備及び改定がなされ、学園全体で更なる向上を図っている。

g：教育活動に関する情報公開として、財務情報をHP上に公開している。

h：年々多様化する情報システム化は、対応する各職員のスキルが課題として挙げられる。

②課題及び改善方策

h：設置3年目を迎えた「総合英語学科」及び「日本語ビジネス学科」、そして本年度新設された「国際ホテル学科 夜間部」により、学生情報は以前にも増して多様化している。これらの情報を取り扱う上で、業務の効率化を可能とするため、適宜研修等を実施するなどの対策が必要であると考えられる。

(3) 教育活動

	評価項目	自己点検 評価結果
a	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
b	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
c	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
d	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
e	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
f	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
g	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
h	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
i	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
j	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
k	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
l	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
m	関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
n	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①状況

- a/b/c/d：今年度も引き続き、学科編成及び半期毎のカリキュラムの見直しを実施した。
例年、販売ビジネス学科で取り組んでいたフリーマーケットについては、大きな見直しを図り、学内でのインショップへ変更し実施した。
- e/f/h：関連分野の企業様及び外部関係者のご協力を得て、年1回カリキュラム等の見直しを実施している。
- g：10項目の質問と自由記述から構成された授業評価アンケートにより、定量的かつ定性的なデータの収集を行い、得られた結果を各担当者へフィードバックする体制を継続している。また、昨年度から学生の満足度向上を目的としたアンケートを年2回実施しており、学生の声を反映でき得る態勢を整えている。
- i：学生を対象とした成績評価、単位認定、及び進級・卒業判定の説明を年3回実施している。
- j：通常授業のみならず、授業時間外の個別指導や長期休暇中の特別講座等、今年度も引き続き万全の態勢を整えている。
- k/l：関連分野の企業との体系的な連携、そして業界に精通する教員の継続的かつ定期的な確保については、引き続き努力を必要としており、長期での課題となっている。
- m/n：職員の能力開発を目的とした研修等は、年々増加傾向にあるものの、定期的な実施及び参加までは至っていない。

②課題及び改善方策

- k/l：現場での実習や定期的な講師派遣等、人材育成目標の達成に必要とされる関連企業との強い結びつきは、依然として大きな課題である。CEP等を利用している学生にとっては、業界の動向に直接触れながら、最先端の知識や技術を吸収出来得る環境にあるものの、全ての学生に平等にその環境が整っている状況ではない。今後も、引き続き関連企業との連携強化のために必要とされる方略を模索し続けながら、定期的な教員の確保に努めていきたい。
- m/n：今年度は、従来実施及び参加していた職員研修に加えて、外国人留学生、及び高等教育段階の教育費負担軽減新制度に関わる奨学資金に関わるセミナーへの参加を強化した。しかしながら、定期的な参加までは至っていない。計画的な研修参加の体制を今後も推進することが求められる。

(4) 学修成果

	評 価 項 目	自己点検 評価結果
a	就職率の向上が図られているか	4
b	資格取得率の向上が図られているか	4
c	退学率の低減が図られているか	3
d	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
e	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①状況

- a：個別性を重視したきめ細やかな就職指導は、継続して実践されており、今年度の希望者就職内定率は98.4%と高水準を保っている。外国人留学生が在籍している日本語ビジネス学科は、今年度も100%となった。
- b：通常授業、授業時間外での自習室の開放、個別指導、そして土日祝日実施の講座等、今年度も引き続き取得率の向上に努めている。国際観光学科においては、取得目標の1つである「国内旅行業務取扱管理者」が合格率68.4%という結果を導き出し、試験地である宮城県平均の36.9%を大きく上回る好成績を残すことができた。
- c：退学率は減少傾向にあるものの、日本人学生においては進路変更等の理由による退学、そして外国人留学生においては金銭的事由により除籍者が発生した。
- d：国際観光学科の在校生が、ストリートダンスにおいて世界的な大会に出場し、優秀な成績を収めた。次々回のオリンピック日本代表候補に選出されており、在校生を対象に学内でダンスショーを開催した。
- e：卒業後の状況把握については、依然として個別のかつ受動的な対応に留まっている。

②課題及び改善方策

- c：日本人学生については、かねてから問題視されていた「モチベーションの低下による退学」は減少傾向にある。しかしながら、自身の将来を見据えた進路変更を理由とした退学が、本年度増加傾向にあったことは、注視すべき事項である。一方で、外国人留学生において金銭的事由によって除籍を余儀なくされたケースが急増したことは今後の課題である。入学試験の段階で、経費支弁能力をいかに正確に確認するかが求められる。
- e：内定先企業との協力関係を構築し、卒業生の状況把握を進めていくことは、今後も重要な課題として挙げられる。

(5) 学生支援

	評価項目	自己点検 評価結果
a	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
b	学生相談に関する体制は整備されているか	4
c	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
d	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
e	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
f	学生の生活環境への支援は行われているか	4
g	保護者と適切に連携しているか	4
h	卒業生の支援体制はあるか	3
i	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
j	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の 取り組みが行われているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①状況

- a/b/e：少人数制、担任及び副担任制、ならびにカウンセラーの常駐等による学生支援は、今年度も引き続き十分な体制が整えられている。
- c：本校独自の奨学金制度、学費減免、及び分割納入制度は、近年増加する自立進学者等の経済的に修学困難な学生を中心に、引き続き実施している。
- d：年1回健康診断を実施する他、授業中体調が優れない場合は保健室で休養をとることができる。
- f/g：欠席が続く学生への電話連絡、保護者への連絡、及び自宅訪問等、生活環境に不適応な学生に対してきめ細やかな対応を実施している。
- h/i/j：中高生の上級学校見学を積極的に受け入れている一方で、卒業生を含む社会人のニーズを踏まえた教育環境等の確立は、未だ手探りの状況が続いている。

②課題及び改善方策

- h/i/j：国際ホテル学科夜間部の新設により、経済的自立を希望する高校生のニーズに合わせた学修環境を整えることができた一方で、卒業生、社会人、及び高校・高等専修学校等との連携等を含めた支援体制及び教育環境の確立は、今後も取り組むべき課題である。

(6) 教育環境

	評価項目	自己点検 評価結果
a	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
b	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
c	防災に対する体制は整備されているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①状況

- a : 学内施設・設備は、必要に応じて適宜整備を進めており、今年度は1F駐車場の改修工事を行った。また、学生の安全面を考慮し、AEDを再設置した。
- b : 今年度の1年次海外学科別研修旅行は、インドネシアバリ島で実施した。一方、日本語ビジネス学科及び国際ホテル学科夜間部対象の国内学科別研修旅行は、箱根・横浜・東京方面で実施した。双方ともに、学生にとって国際交流を行う良い機会となった。
- c : 災害等による帰宅困難者の発生を想定して、学生全員に配布できる水、そして学内宿泊者に対する一部食糧と寝袋を準備している。

②課題及び改善方策

- a : 1F駐車場の改修工事の他、学校内Wi-fi全館設置、PC及び校用車入替、そして学内設備の整備が今年度実施された。今後も、学生が快適な生活を送ることができるよう適宜整備を実施していく。
- c : 防災体制については、今後も定期的な見直しや改善が求められる。複数の防災危機管理者の配置、防災備品の整備、及び避難訓練の定期的な実施等を含めて、引き続き努めていくことが求められる。

(7) 学生の受入れ募集

	評価項目	自己点検 評価結果
a	学生募集活動は、適正に行われているか	4
b	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
c	学納金は妥当なものとなっているか	4

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①状況

- a : 学習意欲が高い学生の受入れを目的として、今年度も引き続き AO 入試を実施し、留学生を対象とした AO 入試を今年度新たに導入した。
また、オープンキャンパスについては、参加者を対象としたアンケートを一新した。事前及び事後の2回アンケートを実施することで、参加した学生の心情等の変化を確認できるようになり、より適切なフォローができるようになった。
- b : Instagram を中心とした SNS による募集活動では、リアルタイムでの情報発信を行っており、学校案内書や HP では見知ることができない学生の日常を発信している。
- c : 同地域及び同分野の他校の学費を参考にしながら、適正な学納金を設定している。

②課題及び改善方策

- b : Instagram は、リアルタイムでの情報発信が可能となる点で、非常に有益な募集活動の1つである。しかしながら、受け手側の価値判断により、情報が歪曲して伝達する危険性を含んでいる。特に、Web 上での情報を頼りに一度もオープンキャンパスに参加することなく入学を決める学生が微増している状況は、注視すべき点である。SNS がもつ強みの1つである発信力を最大限に活用しながら、オープンキャンパスへの参加に繋げるとともに、入学後に感じるギャップをなくすべく、対面での正確な教育効果の伝達を実現できる体制を整備する必要がある。

(8) 財務

	評価項目	自己点検 評価結果
a	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
b	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
c	財務について会計監査が適正に行われているか	4
d	財務情報公開の体制整備はできているか	4

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①状況

- a：評議員会の諮問及び報告を経て、年度予算等の財務状況を確認し、理事会の承認を得て決定している。
- b：今年度も継続して、収入予算の細かな予測、そして支出の状況把握を実施している。
- c：会計監査は、引き続き公正かつ適正に行われている。
- d：資金収支計算書、事業活動収支計算書、及び貸借対照表を本学園 HP 上で公開している。

②課題及び改善方策

- a/b：財務基盤は安定しているものの、中長期的な財政基盤の安定を実現するため、今後も継続的な学生の確保が求められる。特に、昼間部の日本人学生の確保は、最も大きな課題であり、質の高い教育と時代のニーズに合わせた的確な広報活動の実現は、今後も引き続き検討すべき課題である。

(9) 法令等の遵守

	評 価 項 目	自己点検 評価結果
a	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
b	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
c	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
d	自己評価結果を公開しているか	4

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①状況

- a：設置基準をはじめとする規則及び法令について、今年度も適切に対応している。
- b：個人情報保護規定を整備し、職員へ就業規則と共に周知し、適切な運用を行っている。
マイナンバーについては、管理責任者を定め、着任及び退職時に適切な取り扱いを実践している。
入学案内書等に掲載する際の在校生及び卒業生の個人情報の取り扱いについても、趣旨を説明の上、承諾書を受け取り、引き続き適正な処理が施されている。
- c：自己評価の結果を、学校関係者評価委員会より評価いただき、今年度も適宜改善に着手している。
- d：本学園 HP 上で公開している。

②課題及び改善方策

- a/b/c/d：短期的な問題に対する改善は、迅速に対応しているものの、中長期的な視点に立った問題については、対応が継続しているものも存在する。改善点を再度検討すると共に、具体的な方略を導き出すことが今後も求められている。

(10) 社会貢献・地域貢献

	評価項目	自己点検 評価結果
a	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
b	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
c	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①状況

- a：各種検定試験、国家試験、そして入学試験等、今年度も引き続き受験会場として教室の貸し出しを行っている。特に、レストランサービス技能検定学科試験、及びサービス介助士講座については、学生の専門的知識及び技能の習得に留まらず、社会貢献の面においてもその責務を果たしている。
- b：従来への献血活動や地域清掃に加えて、今年度も「金蛇水神社祭典神輿行列」に参加した。今年度は、外国人留学生の参加があり、地域貢献のみならず異文化交流の観点においても、十分な成果を得ることができた。
- c：国際ホテル学科夜間部の新設により、地域に対する教育環境の向上について一翼を担うことができたものの、公開講座等は依然として実施していない。

②課題及び改善方策

- c：職業教育として教育機関のみならず、地域社会に向けた広義での教育機関として、本学園の在り方を検討することは、今後の大きな課題である。本学園設置の学科の特色を生かし、どのように知識や技術を地域社会へ還元していくのか、具体的な方略を模索する必要がある。

(11) 国際交流

	評価項目	自己点検 評価結果
a	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3
b	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
c	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3
d	学修成果が国内外で評価される取組を行っているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①状況

- a：今年度で新設3年目を迎える日本語ビジネス学科は、年々入学者が増加している。この状況下において、受け入れ体制が整備されつつあるものの、発生ベースでの対応に留まっている。
- b：日本語ビジネス学科では、昨年度を大きく上回る外国人留学生在が入学した。また、国際ホテル学科には、ベトナムから1名、そしてネパールから1名の入学者があった。在籍管理等については、職員間で連携を図りながら適切に行われている。
- c：学科担任を中心として、留学生の学修・生活指導等は適切な体制が整いつつある。しかしながら、外国人留學生の急激な在籍者数増加に伴い、これまで以上に複数の職員での対応が望まれる。
- d：総合英語学科では、カナダ、イギリス、及びオーストラリアの3ヶ国にて、今年度も引き続き約4ヶ月間の海外留学を実施した。帰国後には学内で報告会を実施し、海外での学修成果を発表する機会を設けた。また、海外留学を経験した2年次の学生を対象に、英語スピーチコンテストへの参加を促し、学内選考後に1名が本学園代表として全国大会に進出した。

②課題及び改善方策

- a：年々増え続ける外国人留學生の入学について、体系的な受け入れ体制の確立が早急に求められている。今後は、日本語能力はもちろんのこと、経費支弁能力及び希望する職種を徹底して確認するとともに、戦略的かつ適切な広報活動を展開することが求められる。
- c：外国人留學生の出席及び学費納入の管理は、今年度多くの時間と労力を割いた。学科担任を中心とした複数の職員から編成されるティーチングチームの形成が、今後の外国人留學生の対応に強く求められる。
- d：総合英語学科及び日本語ビジネス学科は、学修成果が評価され得る環境が特に重要である。英語スピーチコンテストへの継続的な参加に加えて、外国人留學生が日本語能力を評価される機会を検討することが、今後の課題として挙げられる。